



祐介の目

No.179

大田祐介（福山市議会議員）

のインターンの間、藍やぶどうの栽培と収穫、仕込み、醸造、販売といった様々な作業を通して6次産業の現場を体験した。休日には岩屋権現や龍頭の滝に行くなど、山野町の自然も満喫して

企業インターンシップ

福山市外に流出した若者をいかに呼び戻すか、その有効な方策の一つが企業インターンシップではないかと感じている。私は昨年より山野町の藍屋テロワール（藍染め）と山野峡大田ワイナリー合同でインターンシップを実施しているが、今年はインスタ広告だけで全国各地から10人の学生が集まった。中には外国籍の学生やサンフランシスコ在住の高校生が夏休みを利用してやって来た。

しかし、受け入れは結構大変だ。山野町には公共交通は皆無なので、買い物等の移動用に車を用意した。そうすると脱輪やパンク、バッテリーを上げたり等トラブル続出、その度救援にも行く。住居も用意する必要があり、民宿やまの宿・西元を提供したが、田舎なので虫がいると大騒ぎしたり、ブレーカーを落としたり、こちらも大変だった。

学生達は2週間から4週間

いた。私もリハビリの学生の時に長期の病院実習に3か所行ったが、厳しいながらも楽しい思い出が多かった。病院の治療方針に共感し、職場の人間関係も良く、ここなら就職したいと感じる病院もあった。このような自身の経験を踏まえて、福山の企業にインターンしてもらうには、インターンシップを充実させるべきと議会で提案した。短期間の職場体験やオープンファクトリーよりも、ある程度長期間滞在した方が企業風土なども見えてくる。

ただ、受け入れ企業の負担も大きい。福山市にも「インターンシップ関連経費補助金」があるが、上限15万円、農林水産業を除く、就職を前提とする等の要件がある。この要項を見直し、福山の多くの企業がインターンシップに取り組むようにできれば、就職希望者やインターンも増えるのではないか。検討したい企業は市役所・産業振興課に問い合わせていただきたい。